

TPA



Newsletter

Vol. 35 December 2007



会員の皆様におかれましては、平素よりTPA・JTECS事業に格別のご支援・ご協力を賜り、誠にありがとうございます。泰日経済技術振興協会(TPA) 日本語ニュースレター“TPA Newsletter”12月号をお届けいたします。今後とも、変わらぬご支援・ご協力をお願い申し上げます。



最近の活動

◆ TPA Automation Kaizen Award 2007 ◆



2007年10月4-5日、第3回TPA Automation Kaizen Award 2007を開催しました。今年の大会からは、グループで実施する設備の改善に加え、個人の改善をするKaizen Suggestion Systemも実施されました。

最終審査に残った7つの設備改善、6つの個人改善の事例発表、ならびに、日本HR協会 東澤文二先生の特別セミナーには、337名もの多くの方々に参加いただきました。

TPA Automation Kaizen Award 2007

- 金賞 NOK Precision Component “Verti-cut”
- 銀賞 European Food “卵洗浄器”
- 銀賞 Rodenstok (Thailand) “レンズ洗浄器使用洗浄剤の削減”
- 銅賞 Sanden(Thailand) “電流検査器&製造印押印器”
- 銅賞 Rodenstok (Thailand) “Automatic Blocking Machine”
- 銅賞 X-Ray Hoop CP補助機”
- 技術賞 Sanyo Semiconductor (Thailand) “Automatic Frame Unloader Machine”



TPA Suggestion System

- 改善大賞 NOK Precision Component “Magic Finger”
- 個人賞 NOK Precision Component “Journey of The Box”
- 個人賞 NOK Precision Component “Cutting Story”
- 個人賞 Sanyo Semiconductor (Thailand) “Open door by foot checker circuit”
- 個人賞 Circuit Industries “Block Screen取り付けの改善”



東澤氏



審査員、参加者代表による審査風景



◆ Quality Control Circle: QCC in Japan研修団 ◆

10月8日—12日、Quality QCC in Japan 研修団23名がQCCの本場日本におけるQC活動の取り組みを視察いたしました。日本科学技術連盟(JUSE)、コーセー(株)狭山工場、コニカミノルタエムジー(株)、本田技研工業(株)を訪問させていただき、QC活動の推進や現場の事例を学びました。



本田技研工業



日本科学技術連盟(JUSE)



コニカミノルタエムジー

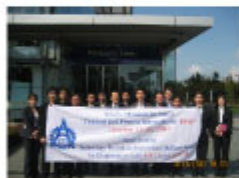
◆ 角川いつかトークショー ◆

10月10日、『成功する男はみな非情である』でベストセラー作家となられた角川いつか女史のトークショーを開催いたしました。タイ証券取引所 Maruey Libraryという立ち寄りにくい場所にも関わらず、60名ほどの方々にお越しいただきました。



◆ TRIZ研修団 ◆

10月13日－20日、Product and Process Innovation by TRIZ研修団13名が、日本におけるTRIZ実践の現場を視察しました。富士ゼロックス㈱竹松事業所、松下電器産業㈱パナソニックセンターの視察に加え、産業能率大学、コニカミノルタビジネステクノロジー㈱からTRIZ実例の講義を頂戴いたしました。



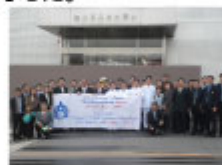
パナソニックセンター



富士ゼロックス

◆ 「Best Practices in TPM」TPM研修団 ◆

10月20日－27日、TPA主催にてTPM研修団32名が、日本におけるTPM活動を学びました。日本プラントメンテナンス協会(JIPM)、㈱ミツバ鬼石工場、三州食品㈱を視察させていただき、からくり改善くふう展では、日本のモノづくりの現場から生み出されたからくり改善の現物に触れ、大変有意義な研修となりました。



三州食品



ミツバ

◆ 日本語教師セミナー ◆

10月22日－23日、TPA附属語学学校では、タイ人日本語教師のための「日本語を使えるようにさせるための教え方」セミナーを開催いたしました。タイ全国から106名の参加がありました。



◆ 日本人専門家による特別セミナー ◆

「論理的に真の原因を導く方法はこれだ！なぜなぜ分析10則習得」

10月31日－11月5日、日本よりなぜなぜ分析の第一人者小倉仁志先生に、論理的に真の原因を導くなぜなぜ分析の考え方・進め方をご指導いただきました。多くの申し込みが殺到し、急遽2回の開催としたにも関わらず、両コース共に定員を超える70名あまりの参加があり、なぜなぜ分析への関心の高さを物語りました。



小倉氏(右)



◆ JAIMA & TPA共同セミナー「食品工場の品質管理の精度向上に必要な分析前処理と分析技術」&「自動車産業を支える分析技術と前処理」◆

11月1日・2日、社団法人日本分析機器工業会(JAIMA)と共催でセミナーを開催いたしました。各コース共に40名近い参加がありました。



◆ 日本人専門家による特別セミナー「Office Improvement」◆

11月7-8日、日本より日本プラントメンテナンス協会 秋本武則 理事/事務局長をお迎えし、「管理間接業務革新のエンジニアリング・アプローチ」セミナーを開催いたしました。間接部門の生産性を上げるのに、多大な効果を発揮するM-MOPプログラムのご指導を頂きました。



◆ 日本人専門家による特別セミナー「巻紙分析」◆

11月14日-16日、日本より『事務効率のための巻き紙分析』(180パーツ)の著者、奥村功氏ならびにJIPMソリューションの高林留美子氏にお越しいただき、巻紙分析の手法を理解ならびに作り方コースを開催いたしました。巻紙作りの演習では、各グループ大変熱心に取り組み、見事な巻紙を作り上げました。



高林氏(左端)、奥村氏(左から2番目) 自信作の巻紙と一緒に

★お知らせ

◆ 改善情報誌 『Creative & Idea Kaizen』 ◆

月刊改善情報誌「Create & Idea Kaizen」は、日本における製造業・サービス業の改善活動を、図・イラストをふんだんに使って紹介いたします。改善活動推進の大きな助けとなる情報誌です。
(日本語オリジナル: 日本HR協会「創意とくふう」)

定期購読料金: 500パーツ(税/送料込み): 年間配本12冊
サンプル本の発送もいたしておりますので、お気軽にお問い合わせ下さい。



担当連絡先: Tel. 0-2258-0320 Ext. 1740

◆ Interview ◆



★改善活動を成功させ、長続きさせるのに、最も重要なことは何でしょうか

- ①楽しく(サバイ)
- ②ラクに(サヌック)
- ③便利に(サデュア)

――この「3つ」に尽きます。

仕事を、楽しく、ラクに、便利にしてくれる改善でなければ続きません。

「頑張り、頑張り」と言うだけでは、それで生産性が上がっても、事故や不良が発生するなど、どこかで不具合が発生します。

しかし、仕事が「やり易い」ように工夫すれば、楽しく働いて、利益も上がります。

改善活動に対して、「仕事とは別の余計なことをさせる」と思っている人がいますが、そういう人には、「生産性など、会社の利益のための改善」を訴えるのではなく、「あなたの仕事を楽にしてください」と言うべきです。改善は「働いている人たちの」メリットを第一とすべきです。

★改善活動で成功している会社には共通点がありますか？「企業文化」のようなものがあるのでしょうか？

改善は「一回だけ」で、すべてウマクいくものではありません。「良かれ」と思ってやった改善が、裏目に出ることがあります。また、自分は良くても、他人に迷惑をかけることもあります。「改善のヘタな会社」は、そこで改善した人を責めます。そのため、やがて、誰も改善しなくなります。

しかし、「改善に成功している会社」は、そのような場合、「やってダメなら、また改善」、「それでもダメなら、また改善」と言って、「次の改善」に取り組みます。

このように、たとえ、「ある改善」が失敗しても、その人を責めるのではなく、「それでは、こうしたらどうか」「こうすれば、なんとかなる」――などのアドバイスを与えるべきです。

もちろん、「一回の改善」が成功する場合があります。「改善のヘタな会社」はそこで満足してしまいます。だが、「改善の上手い会社」は、「やって良ければ、もっと改善」「やって良ければ、さらに改善」と言って、「次の改善」を奨励します。

★改善活動に失敗するのは、どのような会社でしょうか

経営者が「大きな効果」を求めるとダメになります。「大きな効果の改善」ができるのは「一部の部署の、一部の人のみ」です。そのため、それ以外の人は、「改善に対する意欲や関心」を失います。

改善は「一発の大きな投資」による効果よりも、むしろ、全員参加の、日常的な「小さな改善」の「継続的な積み重ね」による「累積効果」を重視すべきです。

もちろん、経営者が「大きな効果をもたらす大きな改善」を高く評価したい気持は理解できます。それも結構です。しかし、それだけで「一部の人のみの改善」になってしまい、ボトムアップによる「企業体質の強化」につながりません。

たとえ、「小さな改善」であっても、そこで「働いている人」による「全員参加の改善活動」の持続・継続が、ゆるぎない「企業の底力」となります。そのためには、まず、経営や管理職が「小さな改善」を大いに認め、褒め、励ますことです。

★

今回の「改善発表会」では、「指先に磁石をつけた」という「小さな改善」が最優秀賞に選ばれました。この改善には「特殊な技術」も「大掛かりな投資」もありません。ただ、ちょっと「知恵」を使っただけです。このような「カネをかけず、知恵を出す改善」に「多数の投票」があったということは、「改善の心」が参加者の多くに理解されていることだと思えます。

★「Kaizen Award 2007」に参加され、タイの改善活動をどう思われましたか？

「すばらしい」の一言に尽きます。「技術的にすばらしい改善」も多数ありました。もちろん、そのような「スゴイ改善」がデキル人々は、今後も、さらに「もっとスゴイ改善」に挑戦していただきたい。

しかし、「指先に磁石をつけた改善」や「トイレトーパーの原理を応用した改善」などのような「小さな改善・簡単な改善」などにも、「発表の機会」が与えられていることに感銘を受けています。

また、このような「小さな改善」を発表させた会社もすばらしい。昔なら、「こんな改善では恥ずかしい。やめておけ」ということになり、もっと「スゴイ改善」を発表させようとしたはずですが。

つまり、

- ①会社が「小さな改善」の発表を奨励
- ②改善者も自信を持って発表したこと
- ③それらが表彰されたこと

――この「3点」こそ、大いに評価されるべきです。

今回、発表した人々は、これから、さらに、自信を持って「知恵を出す改善」に取り組むと思います。

褒められ、認められた人は、けっして、同じレベルにとどまりません。必ず成長していきます。

そういう「機会」をTPAが提供したのは、非常に価値あることです。

★今後の改善発表会に望むこと

どの発表も、「改善の効果」が算出され、明確化されていました。しかし、これからの発表では「効果」だけでなく、次の3点の付加・報告が勧められます。



①「安全」の確認:

いくら生産性が上がっても、人が怪我をしたり、亡くなったりのでは、何の価値もありません。「改善の発表」では、必ず、「安全性チェックの結果」を報告すべきです。

②快適性:

「働く人」にとって、やり難くかたり、不快になるのは改善ではありません。
一人で「1台から2台」へ、最終的には「6台」という「多台持ちの改善」がありました。これは「改善する人たち」と「働く人たち」が、一緒になって段階的に改善してきから、可能だったのです。
外部のコンサルタントに依頼すると、彼らは一挙に「6台持ち」の改善をやってしまうでしょう。だが、それでは「働いている人」はたまったものではありません。なにしろ、昨日まで1台で仕事をしていたのに、いきなり、6台操作せよと言われるわけですから、大変なストレスになります。そのような場合、コンサルタントが引き上げると、スグ、「元のやり方」に戻ってしまいます。それは「やらされ改善」だからです。たとえ、少しずつの改善でも「自分たちでやった改善」なら、その後も、定着し、さらに発展していくのです。

③品質のチェック:

改善した後、「品質的な問題」がないか、きちんとチェックするべきです。いくら仕事がラクになっても、顧客は取引先に迷惑をかけるのは改善ではありません。
いくら、コストダウンになっても、返品やリコールを受ければ、結局は損をすることになります。

★改善活動の今後の傾向

これまでの「改善活動」は、主に、工場で開催されてきました。そのため、多くの人々は「モノを変える」のが改善とっています。しかし、ソフト的な変更も改善です。たとえば、パソコン・ソフトを上手く使いこなし、自分の仕事を快適化・効率化したら、それも改善です。

つまり、「新しく創る」だけが改善ではなく、すでにあるものを「活用する」のも立派な改善です。それは「〇〇活用」、つまり「機能活用・補助具活用・サービス活用・制度活用ー」などといった改善です。

もちろん、「モノを創ること」による改善も重要です。だが、今後は「〇〇活用＝使いこなす」という改善も大いに奨励すべきです。このような観点から考えれば、改善は工場だけのものだけでなく、事務でも、営業でも、まさに、「仕事のあるところ、改善あり」ということが理解されると思います。

☆本日はお忙しい所お時間を頂き、ありがとうございました。今後はタイでもさらに改善活動が活発になることと思います。




iBook
iBook for Language Learning
タイ一日 英一日

コンピューターで手軽に
語学が学べる新兵器。
対話式ソフトを使って、
楽しく簡単に使える言葉
が学べます。



A language teaching software suitable
for learners of all ages.

担当者連絡先: Mr. Supakorn
Tel. 0-2717-3000 Ext. 567 www.tpa.or.th/shopping

改善標語コーナー

1 仕事のやり方・総点検
ワンポイント

「ラクして働けよう」と考えてはならない。額に汗して稼ぐべきだ。まったくそのとおり。
人間は一度でも甘い汁を吸うと、ロクなことにならない。
墜落の始まりである。
しかし、「楽」という漢字は、「タノシム」と読むこともできる。
改善すれば仕事を楽しくすることができ、
イヤイヤながらより、楽しく働く方が能率もあがり、
より良い仕事ができる。
同じ汗でも、楽しみながらの汗には、スガスガしさがある。

仕事を楽しく
楽しむ

日本HR協会
「カイゼンカード」より

★ 今後の予定

★ 語学部より

◆ スクンビット本校タイ語コース ◆

コース	Code	受講日	時間	受講料(ﾊﾞｰｯ)	申込期間	開講期間
初級	T1 07-009	月～金	9:00～11:30	6,800 100時間	11/21～1/9	1/11～3/7
＃	T1 07-010	＃	＃		1/10～2/16	2/18～4/18
＃	T2 07-009	＃	＃		12/22～1/6	1/7～2/28
中級	T3 07-004	月・水・金	＃		11/12～3/9	3/12～6/23
＃	T4 07-005	＃	＃		8/2～3/10	3/12～6/23
初級【夜】	T1 07-05Y	月・水・金	18:30～20:30	(6～7名) 6,100 (8～10名)	11/16～2/8	2/13～4/28
タイ文字	W1 07-005	月・水・金	9:00～11:30	5,400 (11名以上)	11/25	11/28～2/8
＃	W1 07-006	火・木	＃	60時間	1/11	1/15～4/
会話復習	TF1 07-005	火・木	＃	3,000 30時間	2/8	2/12～5/13
短期集中 タイ語会話	TIC 07-004	月・水・金	12:45～15:00		1/10	1/23～2/18

- * 後期コースT2, T4, W2は、前期コース修了者が対象です。(T2については、レベルテスト合格者も可)
 - * タイ文字コースは、T2修了者が対象です。
 - * 受講者が定員に満たない場合には、開校されない場合がございます。
 - * 「タイ文字」ならびに「短期集中タイ語会話コース」は、観光ビザの方でも受講できます。
 - * 初級・中級につきましては、観光ビザでは受講できません。日本国内の姉妹団体(財)アジア学生文化協会 ABKアジアセミナーを通してお申し込みください。就学ビザの取得ができ、午前コースへのお申込みが可能です。問い合わせ先: seminar@abk.or.jp
- タイ語コース担当連絡先: Tel. 0-2258-0320 Ext. 1640,1641 e-mail: thschool@tpa.or.th

◆ タイ語のビジネスコミュニケーション ◆

タイで働くビジネスマンのためのビジネス会話コースです。仕事でタイ語を使う際の、便利な表現・言い回しなどの会話学習のほか、タイ人の考え方・ビジネススタイルなども指導します。

	初級	中級
コース期間	2008年1月23日～6月11日 水曜 18:30～20:45	2008年1月30日～5月14日 水曜 18:30～20:45
時間数	時間数 40時間(20回)	30時間(15回)
受講料	5,900ﾊﾞｰｯ	4,500ﾊﾞｰｯ
申込締	1月18日	1月25日

プログラム

- * 会社のタイ人の同僚や部下にタイ語で仕事を頼んだり、確認するのに便利な表現
- * 顧客との会話(ネゴ、クレーム、問い合わせ、電話)
- * ビジネス専門用語、会議で使う表現
- * タイ人の考え方、ビジネススタイル、仕事上での注意点など

担当連絡先: Tel. 0-2258-0320 Ext. 1640 e-mail: thschool@tpa.or.th

★ 出版部より

TPA書籍は、TPA Book Center(スクンビット本館、パタナカーン新館、ランシット分校)、及び一般書店にて販売されております。一部TPA出版物は、JCCでも、ご購入いただけます。また、クレジット決済も可能なオンライン通販も実施しています。是非ご利用下さい。

<http://www.tpabookcentre.com>

◆ 新刊翻訳書籍のご案内 ◆

『トコトンやさしいトヨタ生産方式の本』 P-0717 215ページ

(日本語オリジナル: 日刊工業新聞社発行、トヨタ生産方式を考える会著)

世界中から手本として評価されているトヨタ自動車の製造システム。本書では、「ジャスト・イン・タイム」と「自動化」の2本柱をやさしく解説。必要なモノを必要なときに必要なだけつくることで、徹底して無駄を排除するトヨタ生産方式の本質、仕組みなどが図解でやさしく解説されています。専門的な予備知識がなくても、トヨタ生産方式を理解できる一冊です。



『ビジネスカテスト 営業力<SG>検定』 P-0702 165ページ

(日本語オリジナル: 日本実業出版社発行、高城幸司著)

本書は、クイズ形式のビジネス書で、様々な営業シーンで求められるセンス、スキル、マナーについて出題されており、自身の営業センス、アプローチ力、提案力、契約力、顧客フォロー力などが試せます。解答&解説を読み進めるうちに、SG(スーパーグレード&スゴイ!)営業マンの考え方や身のこなしが学べる一冊です。

『ためしてみようやさしい科学実験』 T-0705 155ページ

(日本語オリジナル: オーム社発行、日本科学技術振興財団著)

この本では、身近な科学の50テーマを取り上げ、実際にものを作ったり、実験してみたりしながら、科学の面白さや科学的なものが見方が正しく身につくよう、イラストを使って具体的に、手順を追ってわかりやすく解説されています。



『入試数学 伝説の良問100—良い問題で良い解法を学ぶ』 P-0711 240ページ

(日本語オリジナル: 講談社発行、安田 亨著)

数学の勉強で一番大切なのは、良い問題で良い解法を学ぶこと。本書は、駿台のカリスマ講師が過去30年の大学入試問題から選び抜いた傑出良問100題を収録。解説は「考え方」に重点を置き、多くの「別解」を掲載。ぐんぐん力がつくうえに、数学の本当の面白さまでわかってくる一冊です。

『マンガで学ぶ日本語 文化編』 165ページ

(日本語オリジナル: アスク発行、加藤清方、葦原恭子、吉沢由香里、湯田真理子著) 身近な日本文化・日本の風習と日本語をマンガで学びます。愉快な登場人物の会話と4コマ

マンガで、イキイキ会話表現と擬音語・擬態語をマスター。初級学習者に最適。



『4コママンガでおぼえる日本語 いろいろ使えることばをおぼえる編』 165ページ

(日本語オリジナル: アスク発行: 佐々木仁子著)

基本的な語彙・文法をマスターした中級学習者向け日本語教本。「まるい」「まるまる」のような一つのことばからの派生語や、「ひく」のような同音異義語の使い分けを、愉快な4コママンガのストーリーを通じて学習します。



赤川次郎の新刊

警視庁捜査一課の迷宮警部が繰り広げる大冒険部シリーズからL-07RY『流行作家殺人事件』(195ページ)、L-07Y0『妖怪変化殺人事件』(175ページ)発売です。



☆ 在タイ日本人のための、日・タイ クロスカルチャー講座（第22回） ☆

（本講座は、TPA書籍「日本 クロスカルチャー タイ」から、内容を一部抜粋しております）

「家族—公私混同」

タイ人は、日本人よりも家族・兄弟の血縁関係のつながりが強く、大人になっても頻繁に連絡を取り合ったり、一緒に生活したりする人が多い。

日本の場合、自分の職場に家族を連れてくることや兄弟が職場を訪れてくることはあまりないが、タイではよくあることだ。就業時間中に子どもを連れて来たり、兄弟がぶらりと遊びに立ち寄ったり、会社の机に知らない間に座っていたりすることがよくある。

特に土日出動の際などは、子ども連れで来て職場で遊ぶ子どもが多くいる。また、会社の慰安旅行、社内旅行にも子どもや家族連れと一緒に参加する人が多く、社用の海外出張や社内行事などにさえ夫人を同伴していくことは珍しくない。

そして、家族を連れて来て勝手に会社のパソコンを使ったりすることも多く、日本人から見ると公私混同と思われることもよくある。



- ＊ 「日本 クロスカルチャー タイ」は、TPA Book Center各書店、バンコク日系書店、JCC、日本人会別館などにて好評発売中です。（199ページ）
上記の紹介例をはじめとする124の事例をもとに、日本人がタイで生活・仕事をする上での注意点、タイ人スタッフとの接し方、タイ社会のタブーなどを面白く解説した書籍となっています。
- ＊ 日本国内では、アジア文庫（神保町：電話03-3259-7530）にて取り扱っております。こちらも合わせて、御利用ください。



編集・発行



泰日経済技術振興協会(タイ語略称:ソーソー)
Technology Promotion Association(Thailand-Japan)

<http://www.tpa.or.th>

日本語でのお問い合わせは、日本人スタッフまでお願いいたします。

Tel 02-258-0320 浅見Ext.1913

[スクンビット本館]

- 語学事業(日本語、タイ語、英語、中国語)
 - 出版事業(語学テキスト、技術書、文化本、日本語書籍からの翻訳出版を含む)
- 5-7 Sukhumvit Soi 29, Bangkok 10110
Tel.02-258-0320 Fax.02-662-1017



[パタナカーン新館]



- セミナー研修事業(技術、経営など)
 - カリブレーション、水質検査事業
 - IT事業
 - 中小企業診断、診断士育成事業(タイ国工業省委託)
- 534/4 Pattanakarn Soi18, Bangkok 10250 Tel.02-717-3000 Fax.02-719-9481